

授業科目	介護福祉総論 I		授業形態	演習	単位数	1 単位		
担当者	伊藤和雄、松田水月、荒木隆俊							
ナンバリング	E51S171	開講時期	1 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回	
必修・選択	福祉コース:必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1) 理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○	
	(2) 専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1) 基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○	
	(2) 実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3) 学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、高齢者保健福祉制度、介護保険制度、介護をめぐる現状と課題を学ぶ。また、映像視聴やグループディスカッション等を通して介護福祉施設の機能、役割、介護福祉士の専門性、倫理、職務を理解する。福祉コースでは、介護福祉サービスの実践方法を学び、幼児教育にも結びつく視点を理解する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護をめぐる現状と課題を説明できる。 ・介護福祉制度のための基礎的知識を説明できる。 ・「自分で考え、実践できる」を展開していくための視点を説明できる。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。 							
授業計画	第 1 回	テーマ	介護現場の理解①				(担当 伊藤・松田・荒木)	
		内容	介護問題の背景と介護福祉士制度を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第 2 回	テーマ	介護現場の理解②				(担当 伊藤)	
		内容	高齢者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第 3 回	テーマ	介護現場の理解③				(担当 伊藤)	
		内容	高齢者に対する入所系サービスの提供の場とその特性を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第 4 回	テーマ	介護現場の理解④				(担当 伊藤)	
		内容	障害者に対する居宅系サービスの提供の場とその特性を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。					
	第 5 回	テーマ	介護現場の理解⑤				(担当 伊藤)	
		内容	障害者に対する入所系サービスの提供の場とその特性を学ぶ。					
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。					

		学修	復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	第6回	テーマ	高齢者保健福祉制度の理解①	(担当 伊藤)
		内容	後期高齢者医療制度を学ぶ。	
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	第7回	テーマ	高齢者保健福祉制度の理解②	(担当 伊藤)
		内容	高齢者保健推進十か年戦略を学ぶ。	
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	第8回	テーマ	介護福祉サービスの意義	(担当 伊藤)
		内容	介護サービスの歴史的背景と時代背景を学ぶ。	
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	第9回	テーマ	介護福祉サービスの視点	(担当 荒木)
		内容	介護における尊厳保持と自立支援の理論を学ぶ。	
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	第10回	テーマ	介護保険制度①	(担当 伊藤)
		内容	介護保険制度創設の目的、しくみを学ぶ。	
授業時間外学修		予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
第11回	テーマ	介護保険制度②	(担当 伊藤)	
	内容	介護保険制度にかかわる組織とその役割、専門職の役割を学ぶ。		
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
第12回	テーマ	介護予防	(担当 伊藤)	
	内容	介護予防給付サービス、地域支援事業を学ぶ。		
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
第13回	テーマ	介護職員の職業倫理と健康管理	(担当 松田)	
	内容	日本介護福祉士会倫理綱領、こころとからだの健康管理を学ぶ。		
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
第14回	テーマ	コミュニケーション技術	(担当 荒木)	
	内容	コミュニケーションの目的、方法、促す環境、技法と実際を学ぶ。		
	授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業の見直し、要点や疑問点をまとめる。		
第15回	テーマ	まとめ (小テスト)	(担当 伊藤・荒木)	
	内容	これまでの授業の振り返り、ワークシートを用いてまとめを行う。		

	回	授業時間外 学修	予習： 既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。 復習： 疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
教科書・テキスト	配布資料		
参考書・参考資料等	介護福祉士 国試ナビ (中央法規出版社)		
成績評価の方法・基準	小テストと提出してもらう課題レポートにより、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては、次回の授業にて解説する。定期試験については、採点后講評する。		
授業時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習(各授業回約 30 分)、復習(各授業回約 30 分)として、授業計画で示された内容を実施する。 ・ 定期試験に向けてテキストや資料を見直し、既習内容を確認する。(約 50 分) ・ 定期試験の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 3 時間) 		
備考	<p>実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>伊藤：介護老人福祉施設で 26 年間勤務し介護業務、相談援助業務、介護計画作成業務に携わっていた。</p> <p>松田：病院、公的機関で 9 年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。</p> <p>荒木：介護老人福祉施設で 11 年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。</p>		
連絡先 (質問等)	<p>オフィスアワー</p> <p>伊藤：火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>松田：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>荒木：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。</p>		

授業科目	介護福祉総論Ⅱ		授業形態	演習	単位数	1単位		
担当者	松田水月、宮地康子、荒木隆俊							
ナンバリング	E52S172	開講時期	2年次前期	授業時間数	30時間	授業回数	15回	
必修・選択	福祉コース:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	配布資料を用いて、介護分野について学び、福祉を取り巻く現状について理解を深める。介護保険法が施行されて、介護現場は大きく変化し、諸問題も山積している。このような状況の中、対象者とどんな関わりをもって接すればいいのかを考えた時、知識、技術を高めていくことはもちろん、人間理解も視野に入れながら、幼児教育の視点と共通する視点を探究していく。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護をめぐる現状と課題を説明できる。 ・介護サービスの基本的視点を説明できる。 ・介護者の基本姿勢を身につける。 ・幼児教育と共通する援助の視点を持つことができる。 ・「コミュニケーション能力」(1)「人間や人間の生活、社会についての知識・理解」を身につける。 							
授業計画	第1回	テーマ	介護現場の現状(措置制度と介護保険)				(担当 荒木)	
		内容	措置制度から介護保険へと移行した介護現場の歴史に触れ、介護現場の移り変わりについて学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読し、授業イメージを膨らませる。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。					
	第2回	テーマ	介護対象者の理解				(担当 松田)	
		内容	介護対象者の現状(在宅・施設)を学ぶ。					
	第3回	授業時間外学修	予習：「措置」と「介護保険」について調べておく。 復習：授業内容を見直し要点プリントにまとめる。					
		テーマ	身につけたい能力①				(担当 荒木)	
	第4回	内容	コミュニケーション能力について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：これまでの学びから自身のコミュニケーションを行う際に留意していることについて整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。					
		テーマ	身につけたい能力②				(担当 荒木)	
	第4回	内容	観察技術について学ぶ。					
		授業時間外学修	予習：これまでの学びから自身の観察を行う際に留意していることについて整理しておく。					

		復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第5回	テーマ	身につけたい能力③ (担当 荒木)
	内容	「創造」と「想像」を理解し、学びと課題を統合させる。
	授業時間外学修	予習：「創造」、「想像」とはどういう意味か調べておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第6回	テーマ	身につけたい能力④ (担当 荒木)
	内容	「失うもの」という演習を通して、介護対象者の心を理解する。
	授業時間外学修	予習：対象者の心はどのような心理状態になっているか整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第7回	テーマ	サービス提供の基本視点 (小テスト) (担当 荒木)
	内容	これまでの学びから、介護者の援助の視点を探究する。
	授業時間外学修	予習：これまでの学びから、援助の視点を探究する。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第8回	テーマ	基本的介護技術(実技)① (担当 宮地・松田水)
	内容	ベッドメイキング
	授業時間外学修	予習：図書館を利用し、参考書等からベッドメイキングの留意点を整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第9回	テーマ	基本的介護技術(実技)② (担当 宮地・松田水)
	内容	移動の介助
	授業時間外学修	予習：図書館を利用し、参考書等から移動介助の際の留意点を整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第10回	テーマ	基本的介護技術(実技)③ (担当 松田水・宮地)
	内容	排泄の介助
	授業時間外学修	予習：図書館を利用し、参考書等から排泄介助の際の留意点を整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第11回	テーマ	基本的介護技術(実技)④ (担当 松田水・宮地)
	内容	食事の介助
	授業時間外学修	予習：図書館を利用し、参考書等から食事介助の際の留意点を整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第12回	テーマ	基本的介護技術(実技)⑤ (担当 松田水・宮地)
	内容	衣服の着脱の介助
	授業時間外学修	予習：図書館を利用し、参考書等から衣服の着脱の介助の際の留意点を整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第13回	テーマ	介護専門職者の職業倫理(幼児教育者の職業倫理と統合) (担当 松田)
	内容	介護者の職業倫理について、幼児教育者の職業倫理と統合として考える。
	授業時間外学修	予習：介護者の職業倫理として考えられる視点を考えておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
第	テーマ	社会福祉実習指導 (担当 荒木・宮地)

	14 回	内 容	社会福祉実習日誌の書き方や実習の諸注意を通して、共通する実習視点に再確認を行う。
		授業時間外 学修	予習：実習の心構えについて整理しておく。 復習：授業内容を見直し要点をプリントにまとめる。
	第 15 回	テーマ	まとめ(小テスト) (担当 松田水・宮地・荒木)
		内 容	これまでの授業の振り返りを行い、今後の課題を明確にする。
		授業時間外 学修	予習：これまでの授業を振り返り、理解不足の点を整理しておく。 復習：後期の学びに向けた学習課題を整理する。
	教科書・テキスト	適宜資料配布	
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(中央法規出版)		
成績評価の 方法・基準	小テストと授業内容の理解を確認するプリントにより、「介護・福祉」に関する理解の程度(60%)、「コミュニケーション能力」(1)獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	小テストについては、確認後講評を行う。		
授業時間外学修	予習(各授業回30分)、復習(各授業回30分)として、授業計画で示した内容を実施する。 小テスト 学修(各3時間)		
備 考	実務経験のある教員による授業科目である。 松田は、病院、公的機関で9年間看護師、保健師として従事した実務経験を持つ。 宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。 荒木は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。 その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。		
連絡先(質問等)	オフィスアワー 松田・宮地・荒木：月曜日12時25分～12時50分 対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。		

授業科目	介護技術演習		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	宮地康子、松田水月、荒木隆俊						
ナンバリング	E51S173	開講時期	1年次後期	授業時間数	30	時間	授業回数 15回
必修・選択	福祉コース:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	演習を通して、対象者の状況に応じた基本的な介護技術の提供を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な介護技術を習得する。 ・介護技術の援助を通して、介護対象者の立場になって考える力を身につける。 ・互いに意見や気づきを共有し介護の視点について説明できる。 ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	介護場面の理解 (担当 宮地 松田水)				
		内容	介護を必要とする場面について学ぶ。				
		授業時間外学修	予習: シラバスを熟読し、授業の全体像をイメージしてくる。 復習: 授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第2回	テーマ	ベッドメイキング① (実技) (担当 宮地・松田水)				
		内容	グループに分かれ、ベッドメイキングの技術を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習: ベッドメイキングを行う際の留意点を整理しておく。 復習: 授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第3回	テーマ	ベッドメイキング② (実技) (担当 宮地・荒木)				
		内容	グループに分かれ、ベッドメイキングの技術を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習: 前回の授業を通して、改善や工夫が必要である部分を振り返ってみる。 復習: 授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第4回	テーマ	体位交換 (実技) (社会福祉実習指導) (担当 荒木・宮地)				
		内容	グループに分かれ、体位交換を実施する。 (社会福祉実習施設の選定希望調査)				
		授業時間外学修	予習: 体位交換を行う際の留意点を整理しておく。 復習: 授業内容の要点をプリントにまとめる。				
	第5回	テーマ	衣服の着脱の介護① (実技) (担当 松田水・荒木)				
		内容	グループに分かれ衣服の着脱を実施する。				
		授業時間外学修	予習: 衣服の着脱を行う際の留意点を整理しておく。 復習: 授業内容の要点をプリントにまとめる。				
第	テーマ	衣服の着脱の介護② (実技) 課題① (担当 松田水・宮地・荒木)					

6 回	内 容	グループに分かれ、衣服の着脱を実施する。
	授業時間外 学修	予習： 前回の授業を通して、改善や工夫が必要である部分を振り返ってみる。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 7 回	テーマ	排泄の介護① (実技) (担当 宮地・松田水・荒木)
	内 容	グループに分かれ、排泄の介助を実施する。
第 8 回	授業時間外 学修	予習： 排泄の介助を行う際の留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	排泄の介護② (実技) (担当 宮地・松田水・荒木)
第 9 回	内 容	グループに分かれ、排泄の介助を実施する。
	授業時間外 学修	予習： 前回の授業を通して、改善や工夫が必要である部分を振り返ってみる。 復習： 授業内の要点をプリントにまとめる。
第 10 回	テーマ	食事の介護 (実技) (担当 宮地・松田水・荒木)
	内 容	グループに分かれ、食事の介助を実施する。
第 11 回	授業時間外 学修	予習： 食事の介助を行う際の留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	移動の介護① (実技) (担当 松田水・宮地・荒木)
第 12 回	内 容	グループに分かれ、移動の介助を実施する。
	授業時間外 学修	予習： 移動の介助を行う際の留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 13 回	テーマ	移動の介護② (実技) 課題② (担当 松田水・宮地・荒木)
	内 容	グループに分かれ、移動の介助を実施する。
第 14 回	授業時間外 学修	予習： 前回の授業を通して、改善や工夫が必要である部分を振り返ってみる。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	緊急時の対応 (担当 宮地 松田水 荒木)
第 15 回	内 容	介護や保育の現場で実際に起こりうる事例をもとに緊急時の対応を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習の体験等を通して、緊急時の対応について整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 16 回	テーマ	腰痛予防等の健康管理 (担当 宮地・松田水・荒木)
	内 容	ボディメカニクスについて学ぶ。
第 17 回	授業時間外 学修	予習： ボディメカニクスについて、留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
	テーマ	喀痰吸引、経管栄養について (担当 松田水・宮地)
第 18 回	内 容	喀痰吸引や経管栄養について、シミュレーターを用いて学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 喀痰吸引や経管栄養について、留意点を整理しておく。 復習： 授業内容の要点をプリントにまとめる。
第 19 回	テーマ	まとめ (担当 宮地・松田水・荒木)
	内 容	これまでの授業の振り返りを行い、今後の課題を明確にする。
第 20 回	授業時間外 学修	予習： これまでの授業で学んだことを確認、整理しておく。 復習： 授業内容を見直し、次年度の学びに向けた学習課題をプリントにまとめる。

教科書・テキスト	適宜資料配布
参考書・参考資料等	介護福祉士養成講座全巻（中央法規出版）
成績評価の方法・基準	課題と授業内容を理解するプリントにより、領域理解（60%）、「コミュニケーション能力」(3)獲得の程度（25%）、授業参加度（15%）で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	課題提出後、講評を行う。
授業時間外学修	予習（各授業回 30 分）復習（各授業回 30 分）として、授業計画で示した課題の学修（各 2 時間）。
備考	<p>実務経験のある教員による授業科目である。</p> <p>宮地は、病院、介護老人福祉施設にて 9 年間看護師として業務に従事した実務経験を持つ。</p> <p>松田（水）は、病院、公的機関に 9 年間看護師、保健師として業務に従事した経験を持つ。</p> <p>荒木は、介護老人福祉施設で 11 年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。</p> <p>その経験を踏まえ、具体的事例を交えて理解できるようサポートする。</p>
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー</p> <p>宮地・松田（水）・荒木：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>対面での質問・回答を優先したいため適宜応じる。</p>

授業科目	社会福祉実習	授業形態	実習	単位数	2 単位
担当者	荒木隆俊、宮地康子、実習施設職員				
ナンバリング	E52P174	開講時期	2 年次前期	授業時間数	80 時間 授業回数 - 回
必修・選択	福祉コース:必修	実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。 (2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。				○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。				○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。				
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護対象者の理解及び基本的な介護技術の習得と援助視点について理解する。 ・社会人としての自覚も含め、自己の適正能力を身につける。 ・真の人間理解を追求し広い視野と洞察力を身につける。 ・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」能力を身につける。 				
授業計画	実習内容 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の機能の理解。 ・介護対象者の理解。 ・基本的な介護技術の修得を含めた援助全般への理解。 ・施設職員の理解及び、職員の資質、能力等の理解。 ・介護の視点の理解。 ・自己の適正能力を探る。 				
	授業時間外学修	予習： 事前に実習施設の種別、機能等について調べる。 学習課題を明確にし、体調管理も含めた実習準備を行う。 復習： 実習日誌の読み返しを行う。			
教科書・テキスト	実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）				
参考書・参考資料等	なし。				
成績評価の方法・基準	施設からの実習評価及び実習日誌により、介護全般に対する領域の理解の程度(20%)、専門的技能の修得度(40%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)の獲得程度(30%)、授業参加度(10%)で評価する。				
課題に対するフィードバックの方法	実習後に、実習施設評価・各種提出物、出席状況等はすべてフィードバックし、講評を行う。				
授業時間外学修	実習日誌記入及び介護過程の展開記録の整理。				
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 荒木は、介護老人福祉施設で11年間介護業務等に従事した実務経験を持つ。 宮地は、病院、介護老人福祉施設で9年間看護師として従事した実務経験を持つ。 各実習施設では、主として介護職員から指導を受ける。 何れも、実務経験を踏まえ、有意義な実習が展開できるよう連携をとりながらサポートする。				
連絡先（質問等）	実習巡回を行うので、その都度行う。その他、緊急の場合は、荒木を窓口にして電話で対応する。				

オフィスアワー 荒木・宮地：月曜日 12時25分～12時50分

授業科目	卒業研究		授業形態	演習	単位数	2	単位
担当者	専任教員						
ナンバリング	E52S175	開講時期	1 年次後期 ～ 2 年次後期	授業時間数	— 時間	授業回数	— 回
必修・選択	—			実務経験のある教員による授業科目		該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。 (2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なことに興味・関心や疑問を持つことができる力を身につける。 ・研究や論文の基本について理解することができる。 ・〔1年次後期〕「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。 ・〔2年次前期〕「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」を身につける。 ・〔2年次後期〕「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構成して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」を身につける。 						
授業の概要・方法 授業計画	<p>授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生各自が興味のある研究テーマを設定し、それぞれのテーマの専門の指導教員のもとで研究を進めるゼミ形式で実施する。 ・各ゼミの人数は 5～10 名程度であり、活動にはグループディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク等を含む。 ・1年に1回学内外でセミナーを実施し、研修を深める。 ・研究成果は、2年次の12月に「卒業研究」として400字原稿用紙で30～50枚でまとめる。 ・「卒業研究」を要約したレジュメは、「研究集録」として発刊する。 						
	授業時間外 学修	<p>予習： 興味のあるテーマについて情報収集を行う。 各専任教員からの指示に従う。</p> <p>復習： 各専任教員からの指導、助言内容を研究活動に反映させ、研究内容の改善を行う。</p>					
教科書・テキスト	各専任教員からの指示に従う。						
参考書・参考資料等	各専任教員からの指示に従う。						
成績評価の方法・基準	「卒業研究」により、研究や論文の基本についての理解の程度 (50%)、「自分で考え、実践できる能力」(1)、「フィードバック能力」(2)、「学び続け、成長し続ける能力」(2)獲得の程度 (35%)、授業参加度 (15%) で評価する。						

課題に対する フィードバックの方法	評価後に、講評等を行う。
授業時間外学修	各専任教員からの指示に従う。
備 考	—
連絡先（質問等）	オフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。 その他、「卒業研究」の授業前後に各専任教員の研究室にて質問を受け付ける。